

令和元年度(2019年度)北海道・ハワイ州 高校生交換留学促進事業報告書

Hokkaido/Hawaii High School Student Exchange Program 2019

新 し い
自  分
始 ま る

令和2年(2020年)3月
北海道教育庁総務政策局教育政策課

Hokkaido Office of Education
Bureau of Administration and Policy
Educational Policy Division

はじめに

北海道教育委員会は、平成 29 年に北海道とハワイ州の友好提携が結ばれたことを機に、両地域間における高校生の交換留学の実現に向けて同州と協議を進め、今年度初めて、両地域の高校生を相互に派遣いたしました。

平成 30 年度、本道を訪れる外国人が過去最高の 311 万人を記録し、直近 10 年間で約 5 倍になりました。日本社会全体においてもグローバル化が進行し、日本企業の海外進出あるいは外国企業の日本進出により、就職後も様々な場面で外国人と交流する機会が増えています。そのような中、高校生段階で海外留学を通じて異なる習慣・価値観に触れること、外国人と意思疎通を図ること、見知らぬ土地で多くの苦楽を経験することは、何事にも代えがたいものです。

今回は、全道各地から 5 名の高校生が約 1 週間留学し、限られた時間の中でも大きく成長し、本道に帰ってきました。帰国後の参加生徒に対するアンケートでは、5 名全員が「この経験を職業選択や進路選択に生かしたい」と回答しており、多くの参加者が本事業を契機に、本道はもちろんのこと、国内外で大いに活躍されることを期待しております。

令和 2 年 1 月、道教委とハワイ州教育局の間で教育分野に関する覚書を締結し、今後より一層、両地域間の生徒同士の交流について連携を充実・強化させていくことを約束しました。

道教委では、引き続き本事業が、本道とハワイ州との友好親善に寄与するとともに、本道の高校生に夢と目標を与える機会であり続けるよう努めてまいります。

最後になりますが、生活習慣の違いに戸惑い、意思疎通に御苦労されながらも、異国の若者を温かく受け入れ、愛情を持って様々な経験の機会を創ってくださったホストファミリーの皆様、業務多忙な中で御尽力いただいた高等学校の教職員の皆様に、心から感謝を申し上げます。

令和 2 年（2020 年）年 3 月

北海道教育庁総務政策局

教育政策課長 新 免 寛 啓

■留学生一覧

	学 校 名	学校所在地	学年	性別
1	北海道札幌東高等学校	札幌市	2	女
2	北海道登別明日中等教育学校	登別市	4	女
3	北海道静内農業高等学校	新ひだか町	1	男
4	北海道旭川西高等学校	旭川市	2	女
5	北海道北見工業高等学校	北見市	2	女

■事業実施日程

実 施 内 容	月 日	備 考
 ハワイ州留学生到着	令和元年10月5日（土）	北海道受入校 北海道登別明日中等教育学校
通学・ホームステイ	10月7日（月）～11日（金）	
 ハワイ州留学生帰国	10月13日（日）	
事前研修会（テレビ会議）	令和元年11月8日（金）	
 本道留学生出発	令和元年12月1日（日）	ハワイ州受入校 Waipahu High School
通学・ホームステイ	12月2日（月）～7日（土）	
 本道留学生帰国	12月8日（日）	

1 生徒編

生徒に「日本語を学ぶ上で何が一番難しいか」を尋ねると、ほとんどの生徒は「漢字」と答えた。また、英語とはかなり違う文法に苦戦している人も多かった。私が英語の文章を読んでいて難しいと感じる時も、複雑な文法事項が重なっている場合が多いと共感した。実際、日本語について質問されたとき、「この単語は形容詞だからこういう形に変化する」など、文法を踏まえて説明したほうが理解されやすかった。スピーキングという実践的な力もちろんなくてはならないが、文法事項をしっかり基礎からかためていくことは、その後の語学力の発展に大きな意味があると感じる。

ホストファミリーについて-About My Host Family

留学前にとっても心配だったのは、ホストファミリーのことだった。何か失礼をしてしまわないだろうか、自分の英語が通じなかったらどうしようか、何より、1週間という限られた時間の中で仲良くなれるだろうか。しかし実際はこの家族に迎えられて、本当に良かったと思えることばかりだった。その要因の一つとして、伝えようとする意志、英語の会話を楽しむ気持ちを忘れないことがある。ホストファミリーは、私たちがいくら文法を間違えても、伝えたいことがうまく理解できなかったとしても、精一杯伝えたい姿勢や会話を楽しみたい気持ちを表せば、笑顔でしっかり耳を傾けてくれた。そうして自然に仲良くなることができた。



ホストマザーはハワイの伝統料理を作ってくれて、知っている日本語も話してくれた。ホストファザーは毎日ランチのサンドイッチやスパムおにぎりを作ってくれた。ホストシスターの弟はハワイ語を教えてくれたし、妹は日本語が書かれた絵もプレゼントしてくれた。子犬のコダともたくさん遊んだ。いろいろなところに連れて行ってくれた。最初は静かだった夕食の時間はどんどん賑やかになっていった。自分の英語を通じたコミュニケーションで、家族という存在になれたことは、英語を学ぶ上で大きな自信になったし、かけがえのない出来事になった。



【ホストシスター】

この留学で一番過ごした時間が長く、一番親しくなったのが、ホストシスターのクリステンだ。毎日一緒にスクールバスで通学し、医療の仕事を目指すクリステンと一緒にバイオテクノロジーの授業を受けたり、昼食を食べたり、放課後はクリステンがソプラノパートを務めている合唱部の見学をしたり、日本語クラスをとっているのでお互いに日本語と英語を教え合ったりした。クリстенは部活や勉強など何事に対しても努力家で、自分と同年代の子が、日本にいる自分とまったく異なった環境で一生懸命いろいろなことに打ち込んでいる場面をたくさん見ることができてとても感心したし、こんなに離れているところに自分たちと同じように毎日努力している子がいるという事実が、とても励みになった。留学の中盤から後半にかけては、夜一緒に折り紙や花札をしたり、パックをしたり、日本人の友達と変わら

ない距離感で過ごすこともできた。「あなたは友達じゃなくて私の姉妹だよ」と言ってくれた。最終日の前日の夜から、寂しくてふたりともずっと泣いていたし、翌日の空港でも、私たちだけでなく、私たち留学生とそのホストがほとんど全員泣いていた。それほど、濃く強いつながりが生まれるような留学になったことがとても誇らしい。

真珠湾について-About the Pearl Harbor

私がハワイで最も訪れたかった場所の一つが、真珠湾攻撃の犠牲者を慰霊するために作られたアリゾナ・メモリアルホールだった。そして、訪れた12月6日の翌日はちょうど真珠湾攻撃から78年目の日でもあり、すごく意義のある経験ができたと思う。

私にとって特に印象的だったのは、音声ガイドで、真珠湾攻撃当日に戦艦にいたアメリカ兵の方が、日本の奇襲攻撃のあと、戦艦の甲板に何か白いものが舞っていて、そしてそれが先程まで生きていた人の灰だと気づき、甲板に膝をついて泣いたと語った部分だ。寸前まで生きていた人の灰が舞うなんて、どれほど凄惨で恐ろしいことなのだろうと思ったら、その場を動けなくなった。

もちろん、真珠湾攻撃が1941年にあって、それで太平洋戦争が始まってというのは、中学校の社会科でも習ったし、これから日本史の授業にも出てくるだろう。しかし、それを実際に体験した人の言葉を聞き、犠牲者の方全員の名前がある壁の前に立ち、多くの写真を見て、教科書を越えて戦争とは何かを学んだ。私たちの思うより、戦争は惨くて、多くのものを奪うのだと知った。これから私たちが生きる社会に戦争はあってはならないと、とても当たり前なことだけれど、今までよりも強く固く考えることができた。

日本語クラスを教えている Smith 先生が、「78年前だったら、ハワイにみなさんのような日本人留学生が来ることも、何かを交流することも叶わなかったでしょう」と繰り返しおっしゃっていた。平和は当たり前ではない。改めて、この経験の貴重さを痛感した。



最後に-In Conclusion

一週間という期間は本当にあっという間だったが、想像以上に多くの経験ができた。特に、「英語を」学ぶのではなく、「英語で」学ぶ、という目標が達成できたと感じられて嬉しい。日本語の授業が実施されていて、真珠湾があって、多様な人種の方がいる、そんなハワイだからこそ実現したことも多いだろう。ぜひ、これからもこの交換留学を続けて欲しいし、こんなに貴重でかけがえのない体験をできる生徒が増えたらいいと強く思う。

先生に背中を押されて、このプログラムに勇気を出して応募したことで、私は人生において本当に忘れられない一週間を、素晴らしい人たちと一緒に過ごすことができた。これからも果敢な挑戦を忘れず、たくさんたくさん新しいことを体験していきたい。

この素敵な機会を頂きサポートしてもらったことに、心から感謝します。ありがとうございました。

ハワイへの留学を終えて

北海道登別明日中等教育学校 4年

私が通っている学校は毎年多くの生徒が海外へ行くプログラムに参加しており、その体験を報告会で聞いて海外に行ってみたいという気持ちが強まりました。また、自分の英語力を試すためにも行きたいと強く思ったことがきっかけとなり応募しました。

ハワイの空港に到着すると、ホストファミリーとホストシスターの友達がレイと手作りのボードを持って出迎えてくれました。行く前から連絡を取っていたこともあり、会ってすぐに会話が弾みました。



ハワイに留学中はワイパフ高校に通いました。学校に行くと、10月に交換留学で私の学校に来た4人の生徒と再会することができ、さらに私の学校のマスコットキャラクターのキーホルダーを持ち歩いてくれていて、嬉しい気持ちになりました。

ワイパフ高校の生徒は、すぐに私の顔を覚えてくれて、すれ違った時に笑顔で手を振ってくれたり、積極的に話しかけたりしてくれました。また、様々な授業を通して、沢山の生徒と会話をして関わることも出来ました。生徒や先生は

とても優しく、英語が分からない時には日本語で教えてくれたこともありました。日本語の授業を取っている生徒が学校を案内してくれた時には、日本語を使って説明もしてくれました。その授業での質問コーナーでは、日本に興味を持ってくれただけでなく、様々な質問もしてくれました。一方で、日本の漫画やアニメについて聞かれた時、私自身が知らないものも多く、日本文化について学ぶ必要があるとも感じました。

ワイパフ高校には日本と違う点がたくさんありました。授業時間が科目ごとに異なり、すべての授業が終わる時間も日によって違うため、慣れるのが大変だと感じました。また、ワイパフ高校は5つのアカデミーから成り立っていて、自分の将来を見据えた勉強を高校のうちから学ぶことが出来ます。実際に、将来教育関係の仕事に就くことを希望している生徒が受ける授業に、ホスト生徒と参加しました。大学生が来て教育の話聞き、それに関しての質問が出来るという内容で、まるで大学のように専門的に学べる点に驚きました。それに加えてホスト生徒とは、英語や数学、写真の授業も受けました。最初はすべてが英語の授業で戸惑いがありましたが、次第に慣れていくにつれて、先生の指示や授業の内容を理解することが出来ました。

ワイパフ高校に通学した5日間は、失敗を恐れずに自分からも積極的に話しかけに行きました。そうすることで、ハワイの文化や日本との違いについてより一層学ぶことができ、充実した5日間を送ることが出来ました。最終日には絵やお菓子、レイや学校のTシャツをプレゼントしてもらいました。



私のホストファミリーはとても優しく、1週間という短い期間ではあったものの、私のことを本当の娘のように思って接してくれました。また、私が行きたいと事前に伝えていたワイキキビーチやアラモアナショッピングセンターの他にも、ワイケレアウトレットやパールリッジセンター、ロイヤルハワイアンセンターなど沢山のショッピングモールや海を紹介してくれて、連れていってくれました。最終日には、メッセージ付きの手作りのアルバムをプレゼントしてくれました。お世話になったホストファミリーとの別れはとても寂しかったです。



私はこの事業に参加した1週間で自分自身を大きく成長させることが出来ました。今まで英語だけの世界に足を踏み入れたことが無かった私は、ハワイに行くまで自分の英語が通じるのか不安でいましたが、いざ行って自分が話したことが相手に伝わった時はとても嬉しかったです。初日は英語のスピードについていくのもやっとでしたが、日数が経つにつれて話していることが段々と聞き取れるようになり、伝えたいことも自分なりに表現出来るようになっていき、英語でコミュニケーションをとる楽しさに気づきました。一方で、伝えたいことを上手く英語で表すことができない場面もあり、もどかしい思いもしました。今までは自分の自信の無さから、英語を使って話すことをためらいがちでしたが、この事業に参加してからは、自分から積極的に英語を使って関わることが出来るようになりました。また、ワイパフ高校への最後の登校日には真珠湾に行きました。78年前までは北海道とハワイがこのような友好提携を締結することが考えられないほどの状態だったと思うと、私が今回このような事業でハワイの人々と交流を深められたのはとても貴重なことだと感じます。初の海外生活をハワイで体験出来たことは一生の思い出になりました。私にこのような素晴らしい機会を与えていただき感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



ハワイ州留学事業 事後報告書

北海道静内農業高等学校 1年

【なぜ北海道ハワイ州高校生交換留学促進事業に参加したか】

僕は幼い頃から父の仕事の関係により、セネガル、タンザニア、ケニアのアフリカの3カ国に住んでいました。日本に帰国して驚いたことはプラスチックゴミが多いということです。特にペットボトルやポテトチップスなどのビニール袋が多いと感じました。僕は以前ニュースなどで、ハワイがプラスチックゴミ対策において世界をリードしているということを聞いたことがあり、自分の目で確かめてみたいと思ったのと同時にハワイはどのようなプラスチックごみ対策をしているのかを学び、多くの人に情報発信をしたいと思い参加しました。

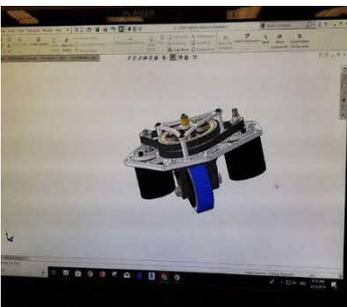
【1週間のスケジュール】

～1日目～

新千歳空港→福岡空港→ダニエル・K・イノウエ空港と約9時間のフライトでハワイに到着しました。イノウエ空港では最初ホストブラザーのセバスチャンに会いました。セバスチャンは黒いマスクをつけて、金髪で最初は怖かったのですが、いざ喋って見るととても面白く、漫画やアニメ好きだということがわかりました。その後はスーパーでポケという鉄火丼に似た食べ物を買って、ハワイエクストリームペイントボールにてエアソフトというビービー玉を使って銃撃戦を行う競技をセバスチャンとしました。最初は難しかったですが、慣れるととても楽しくなってきました。エアソフトのあとはセバスチャンの家に向かい、セバスチャンの家族（セバスチャンの兄のキャスパー、弟のモシー、エヴェッド、妹のエンジェル、セバスチャンの母、おばさん、祖母、キャスパーの彼女）に会いました。その夜はセバスチャンが日韓のアイドルのTWICEが好きだと聞き、TWICEのダンスを教えてもらいました。1日目からイベントが盛りだくさんでとても楽しい一日でした。

～2日目～

2日目はセバスチャンが通うワイパフ高校に行きました。ワイパフ高校は全校生徒が2,000人以上の大きな学校で迷子になりそうでした。僕は多くのクラスをセバスチャンと一緒に行きました。一番印象に残っているのはメカニカルエンジニアリングという機械を設計して、実際につくって動かしてみたりするクラスです。他にも3Dプリンターを用いてアートを作ったりしてアメリカの教育は最先端ですごいと思いました。放課後はセバスチャンとセバスチャンの友達とiTrampoline Hawaiiという巨大トランポリンで遊べる施設に行きました。そこではトランポリンを跳ねながらドッチボールやバスケットをしました。他にも巨大ジェンガを作って遊び、とても充実した一日でした。



～3日目～

3日目に僕はアラモアナセンターという全米で三番目に大きいショッピングセンターに行きました。僕はここで両親、クラスや先生へのお土産を買いました。自分にはアロハシャツを買いました。その後は韓国料理店に行きましたが、どれもアメリカンサイズで驚きました。楽しい一日でした。

～4日目～

4日目に僕はハナウマ湾というビーチにセバスチャンやセバスチャンの友達、家族と一緒に行きました。ビーチはサンゴ礁がたくさんあり魚もたくさんいてとても美しかったです。その後はハワイ料理の店に行きました。ハワイ料理の定番であるロコモコを食べ、とても美味しかったです。ハワイの海に入ることができてとても素晴らしい一日でした。

～5日目～

5日目に僕はワイパフ高校の中にある様々な施設を見学しました。車の整備工場やセラピアの養殖、バイオ研究所に行きました。高校はまるで大学のように大規模でアメリカの教育は最先端ですごいと改めて実感しました。そのあとセバスチャンの家に帰り、セバスチャンと TWICE のダンスを踊ったり、日本の音楽を紹介したり、逆にセバスチャンからはハワイの音楽を紹介してもらったりとお互いにそれぞれの文化を紹介しながら交流を深めました。

～6日目～

6日目に僕はパールハーバーの記念館に行きました。1941年12月7日に日本とアメリカがハワイで戦い、後に太平洋戦争の原因となった戦いです。僕はそこでとても悲しい映像や写真を見ました。何の罪もない人達の命を奪う戦争はあってはならないことだと思いました。そして普段の平和な生活に感謝したいと思い、とても学びの深い一日でした。

～7日目～

最終日に僕たちは朝の四時に起きて、朝日を見るため Lanikai pillboxes という山を登りました。2時間ぐらい待っていると、とてもきれいな朝日が登ってきて、とても思い出に残りました。その後は、海で集合写真を撮り、みんなとファストフード店で朝食を食べ、たくさん思い出を作りました。朝食のあとはダニエル・K・イノウエ空港に行きセバスチャンたちとお別れをして、夢のような一週間が終了しました。



【ハワイ留学を通して学んだこと】

今回のハワイ留学で僕は主にハワイのプラスチック対策について学びました。アラモアナセンターに行った際にプラスチックバックはなく、その代わりにエコバックがありました。エコバックがない場合は買わないといけないというデメリットがあるのですが、日本で使う一回きりで捨ててしまうものに比べれば、何度も使えるというメリットがあります。日本でも浸透してきていますが、ハワイの方が進んでいると感じました。また、リサイクルバックがあったり、海ではゴミ箱の設置があったりとハワイは自然に優しい取組がたくさんありとても勉強になりました。

【全体を通して】

全体を通して僕はとても楽しい体験がたくさんできたと思います。それには、ホストファミリーが大きく関わっていたと思います。セバスチャン、セバスチャンの兄や母に、車であらゆる場所に連れて行って頂いたり、様々なことについて教えて頂いたり、様々な体験をさせていただきました。ホストファミリーなしではこのような素晴らしい体験は決してできなかつたと思います。ホストファミリーにとっても感謝しています。

ハワイ交換留学促進授業 報告書

北海道旭川西高等学校 2年

1. 参加した理由

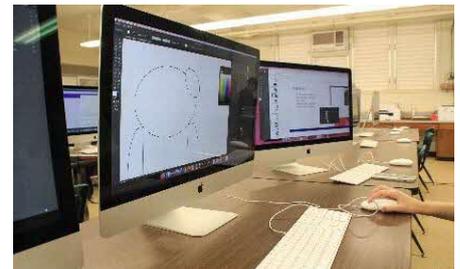
4歳から英会話を習っていたため昔から英語や洋楽が大好きで、いつか海外に行ってみたくて漠然と思っていました。ですがなかなか機会がなく諦めかけていた二年生の夏、このお話を聞いて、受験生になる前の最後のチャンスに挑戦してみよう、と思い応募させていただきました。

2. ワイパフ高校について

初日の授業では、ホストシスターの Jazlyn の授業と、ハワイ語の授業に行きました。ハワイ語の授業では簡単なゲームをしました。先生と生徒が優しくて面白くて、本当に楽しかったです。英語の授業ではパソコンを使って意見を共有していて、日本よりもデジタル化が進んでいると感じました。確かにこの学校ではプロジェクターを使う先生が多かった印象があります。Welcome ceremony では私の住んでいるところについて英語でプレゼンを行い、日本語で生徒のみんなと交流しました。日本へ来たことのある子もいて、日本へ関心を持ってもらえることがとてもうれしかったです。

次の日は Sai の授業に行きました。彼女はアートを専攻していて、美術の授業で絵をかいたり、グラフィックアートのクラスで photoshop を使ってキャラクターを作ったりしました。日本とは違い授業中音楽が流れていたりして、クリエイティブで自由な授業でした。ワイパフ高校には工業、農業、芸術、エンジニアリングなどいろいろな科があり、まるで総合大学のような高校でした。

別の日には日本語の授業に参加し、自己紹介やゲーム、お互いの国について質疑応答をしました。みんな日本の学校の生徒数の少なさや、授業形式の違いに驚いていました。また日本食をよく知っていて、好きな日本食が鍋焼きうどん、カレーうどんと聞いたときには思わず共感してしまいました。



3. ハワイでの生活

1日目は、アラモアナショッピングセンターに行き、ABCストアや、ボディクリームやハンドソープが売っているお店に行きました。その後ワイキキビーチ周辺をドライブして、周辺の建物やお店を紹介してくれました。夜はお母さんのおじいちゃんの家へ行って、ご飯を食べました。みんなで映画を見たり日本の話をしたりして盛り上がりました。

2日目は夜ご飯の後にボードゲームとカードゲームをしたのですが、弟の Jelen が一生懸命ルールの説明をしてくれました。私がわかるまで手伝ってくれて嬉しかったです。

3日目はコオリナビーチへ。途中でマンゴースムージーのタピオカ(ポバ)を飲み、ビーチでたくさん写真を撮りました。初めてのビーチだったためとても楽しかったです。

4日目の夜には宿題を手伝い、アメリカで人気のテレビを教えてくださいました。

5日目は Jazlyn の友達と近所の家のクリスマスのイルミネーションを見に行きました。そのイルミネーシ

ョンが音楽と連動していて本格的だったので感動していると、ハワイではクリスマスイルミネーションの大会があるのだと教えてくれました。

6日目は学校でお別れ会でした。この時お父さんと弟がテニスの試合でハワイ島へ行ってしまっていて、寂しかったです。帰る前にワイケレショッピングモールに行き、Honolulu cookie companyでお土産を買いました。

7日目は空港に行き、最後に手紙と授業で作ったレイをあげてお別れしました。5人とも出国審査前に号泣して、本当に悲しかったのを覚えています。



4. 帰国後の変化

私がこの留学に参加した目的は、自身の語学力を向上させること、異文化を理解しその多様性を受け入れること、歴史や伝統について学ぶことでした。



語学力については正直 1 週間で伸びるのか不安でしたが、最終日に Jazlyn が「最初はゆっくり話していたけど、今は普通の速さでも分かるようになったね！」と言ってくれました。確かに初日は全然聞き取れなく、緊張して話せなくて苦労したけれど、今はジョークや感情も込めて話せるようになりました。

異文化交流の面では、留学中ホストファミリーがたくさんハワイ料理を食べさせてくれて、食文化についてよく学ぶことができました。ハワイは移民の国なので、ポルトガルや日本、フィリピンなど様々な国の文化が融合していることに気が付きました。また、学校ではみんな初対面にも関わらず必ず挨拶してくれて、ハワイの人はとてもフレンドリーな性格で、温かい方ばかりだと感じました。

歴史や伝統においては、パールハーバーやアリゾナ記念館の見学でよく理解できました。アメリカの視点から真珠湾攻撃という悲惨な事実を学び、このような戦争は決して繰り返してはいけないと再び強く感じました。また、今後私たちは何をしなければいけないのかを考えるきっかけになりました。学校ではフラダンスやハワイ語の授業で伝統を学び、ゆったりとした音楽やハワイ特有の言葉に関心を持ちました。

そして私はこの留学を通して、大きく成長することが出来ました。特に大きく変わったのは英語に向き合う気持ちです。1 週間英語漬けの生活をしてみて、もっと母国語のように話せる人になりたいと強く感じました。そしてまたいつかハワイに行くためにより英語を磨きたいと思い、以前よりも自主的に勉強するようになりました。

この貴重な経験を今後もいろいろなことに生かして、より有意義なものにしていきたいと思います。今回このような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。



ハワイ州 高校生交換留学促進事業報告書

北海道北見工業高等学校 2年

私は以前から異国に興味があり、韓国語や中国語などの勉強もしていました。将来は、土木関係の仕事をしたと考え高校に入学したのですが、現場見学の際に外国人労働者の姿を見かけたり、将来入職を考えている北海道開発局ヘイターンシップで行った際に、海外派遣もあると聞き、将来土木関係の仕事をする上で英語が必要になると感じ、今回のハワイ州への留学に応募をしました。

～ 1日目 ～

8時ごろにハワイに到着し、飛行機を出たところで虹がお迎えしてくれました。ハワイでは虹が出る人が多いみたいです。空港を出たところでホストファミリーとワイパフ高校のスミス先生がレイとネームカードを持って出迎えてくれました。その後、ホストファミリーとご飯を食べ、アラモアナショッピングセンターへ行き、ホストシスターのテイラーとおそろいの水着を買ってワイキキビーチへ行きました。ワイキキビーチでは他のさりという留学生とそのホストファミリーと一緒に過ごしました。最初は緊張してあまり話すことができませんでしたが、お出かけをしている間に慣れることができました。



～ 2日目 ～

ワイパフ高校登校の初日は、ホストシスターではない生徒とともに授業を受けました。歴史や科学の授業を受けたのですが、外国語で授業を受けるのはとても難しかったです。他の4人の留学生と一緒にハワイ語の授業も受けたのですが、アイヌ語のようにまったくその国の今の言語と違い、英語でさらに他の言語を学ぶのは大変でしたがワイパフ高校の生徒が優しく教えてくれました。ウェルカムパーティーで事前に用意していた自己紹介の発表も緊張せずに行うことができました。放課後には、テイラーと一緒にサッカー部の練習に参加し、コーチからもらった選手みんなとおそろいのキーホルダーは私のお気に入りです、通学かばんに毎日つけています。家ではテイラーとクリスマスツリーの飾りつけをしました。ホストマザーがテイラーと私の写真を使ったオーナメントをつくってくれてとても嬉しかったです。

～ 3日目 ～

日本語クラスの方の案内で校内探検ツアーに行きました。学校にはたくさんの建物があり、授業ごとに部屋が違いました。サッカーコート近くからは真珠湾が見えました。私の楽しみにしていたengineeringの授業も受けたのですが、3Dプリンタを使った設計は初めてで難しかったです。放課後はテイラーのサッカーの試合を見に行きました。

～ 4日目 ～

この日は料理の授業、フラダンスの授業、HIPHOP ダンスの授業を受けました。料理の授業ではアイシングクッキーを作ったのですが、私の新しい才能が見えました。HIPHOP ダンスの授業では、同じ北海道からの留学生やワイパフ高校の生徒と大好きなK-POP を踊ることができて楽しかったです。お昼にはラウラウというハワイ料理を食べました。バナナの葉に包んであるお肉が柔らかくて美味しかったです。



です。放課後には他の北海道からの留学生二人とそのホストシスターと一緒にタピオカを飲みに行き、ワイケレアウトレットパークに行きました。有名なブランドがとても安く売っていました。

～ 5日目 ～

自然関係学科の授業を見に行きました。魚を養殖して売ったり加工したりしている場所で、電気代のかからない気圧で動くポンプで水槽の水を吸い上げ、火山石できれいにするということをしており、排水をきれいにする作業がある工事現場でも使えないのかと考えました。レイを作る授業が引率の方やワイパフ高校の生徒などと沢山話すことができ、とても楽しい時間でした。放課後には after college という大学の単位が取れる授業を受けました。



サッカーの練習にも参加したのですがゲーム形式の練習で点を決めることができ、楽しかったです。



～ 6日目 ～

この日は真珠湾の見学に行きました。太平洋戦争のきっかけとなった真珠湾攻撃について詳しく知らなかったのですが、アメリカのことだけでなく日本のことについても詳しい資料があったのでとても勉強になりました。

夕方のお別れ会ではご飯と他の留学生やそのホストファミリーとの会話を楽しむことができました。その後にはホストファザーが夜のイルミネーションを見るドライブに連れて行ってくれました。カメハメハ大王も見ることができました。

～ 7日目 ～

出国の前にずっと気になっていたスターバックスに行くことができました。ほかの留学生やホストファミリーからお手紙やプレゼントを貰い、とても嬉しかったです。私のホストファミリーとハワイで結婚式をして招待をすると約束もしました。

この留学を通して・・・

私は学校の授業でしか英語に触れる機会がなく、今回の留学にはかなり緊張して臨みましたが、それでもある程度英語は聞いているうちにすぐ慣れること、伝えることができるということ、学んだ英語が伝わる喜びを知ることが出来ました。文法があっているかもわからず話していたのですが、これをきっかけに正しい文法や発音など深く勉強をしたいと思うようになりました。また、この留学で経験した沢山の出来事が私の新しい一面に気づけるきっかけや、たくましく成長する機会となりました。

2 教員編

令和元年度(2019年度)高校生交換留学促進事業に係る報告書

北海道登別明日中等教育学校 教諭（受入担当）

1 本校の実態

本校では開校以来 13 年間、前後期を通して一貫した英語科教育に力を入れている。1 回生より ALT2 名による英会話の授業、2 回生では登別市の ALT や大学の留学生にも協力していただいて行う 1 泊 2 日のイングリッシュキャンプ、3 回生では福島県のブリティッシュヒルズで行う語学研修を見学旅行の中で実施している。後期生となった 4 回生でも市内の小学校で生徒全員が講師となり、英語を教える学習を行っている。5 回生ではそれらの集大成として、アメリカとカナダへの海外見学旅行を実施している。また、今年度より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受けており、海外見学旅行の中で自らの探究活動の紹介を現地の高校生に対して英語で行うことで交流を図っている。

この他にもユネスコスクールとしての活動や昨年度まで指定を受けていた「スーパーグローバルハイスクール」事業を通してさまざまな国際交流活動を進めており、生徒が海外に興味を持ちやすい、また目を向けやすい環境を整備してきた。その国際交流活動の一つに留学生の受入や派遣があり、今年度も本事業に応募して 4 名の留学生を受け入れるとともに 1 名の生徒を派遣した。

2 受入に向けた事前準備

本校での留学生受入が 7 月に決まってから、さまざまな準備を進めてきた。本校では国際理解教育推進委員会が設置されており、教科や分掌を越えてサポート体制をとることができている。

2-1 時間割の作成

留学生が本校生徒と日本語での交流を図りやすいように、主に芸術・実技科目と一緒に参加する時間割を作成した。これらの科目と英語を除いた科目については、日本語学習の時間として会話表現を中心とした指導を英語科教員で行った。英語の授業においては、多くの回生の授業で自国紹介を行うなど、毎日の時間割の中に少なくとも 1 時間が入るようにした。英語の授業の詳細は次の 3 で記載することとする。本校では時間割の決定が早いため、留学生の来日前に教科担当者および対応教員の名前を入れた英語版の時間割を委員会の担当者が作成して、事前に連絡していた。

2-2 他の教員との協力体制

留学生の受入にあたって、留学生の受入学級の決定およびホームステイ先の情報共有、保護者との連携は担任と連携をとって進めていた。担任にとって負担となり過ぎないように役割の分担も委員会で率先して図った。幸い今年度は留学生を受け入れる回生で英語科教員が担任をしていたため、連携や情報共有はスムーズに進めることができた。

留学生が参加する授業では、内容の選択・決定で教科担任とも連携をとった。科目によっては、ジャージ(運動できる服装)など授業を受けるにあたって必要とされる物を、委員会担当と教科担任間で確認して留学生に連絡することで対応した。どの科目も学習内容があらかじめ決まっていたこともあり、こちらも連携はスムーズにとることができた。

日本語指導では留学生の理解が行き詰まったときのサポートも考慮して、国語科教員ではなく、英語科教員で対応している。これについては、本校では長期間の留学生を受け入れる際に英語科教員が日本語学習をさせながらサポートを行ってきた流れを受け継いだものである。

放課後の活動についても来日前に留学生に部活動の紹介を行った。顧問の先生方には留学生が見学したうえで参加したい活動を決めるということを事前に連絡していたこともあり、留学生が参加する活動を決めてからは活動自体には何も影響はなかった。道具やスケジュールも部員同士で調整して伝えるなど、留学生が活動しやすい環境を作っていた。

今年度は前期生との交流を深めるなどの理由で留学生に給食を提供した。一緒に食べるクラスを日ごとに変えていたため、養護教諭と連携をとりながら進めていったが、アレルギーへの対応など事前にプロフィールをいただいていたこともあり、スムーズに行うことができた。

2-3 ホームステイ先との調整

本校では他の国際交流事業でも留学生を受け入れることがあるため、その都度ホームステイ先を調整してきた。今年度はあらかじめ受け入れが決まっている事業をリストアップして、ホストファミリーの受入希望調査を一つにまとめた。これによってホームステイ先の調整負担は軽くなり、非常に効率のよいものにすることができた。

1週間の受入であることやハワイ州からの留学生が来るということもあり、他の事業よりも受入可能な返事をしていただける家庭は多かった。生徒および家庭の要望を考慮して、特定の家庭のみに依頼が集中することのないように担当者間で調整を行ったが、とくに支障はなかった。また、ホームステイ先の最終決定については、日本語の学習歴やレベルに加えて、趣味、スポーツ、年齢など留学生と受入生徒との共通点が多くなるような工夫で、ホームステイ先と留学生の組み合わせを決定している。その際、上記の項目に加えて食物制限やアレルギーの有無などをまとめた留学生のプロフィールを配布して、最終的に受け入れていただけるか併せて確認している。

3 本事業を通しての生徒たちの変化

本事業の目的の一つに「国際的な視野とコミュニケーション能力を持った人材の育成」があり、さまざまな場面を通して本校生徒たちも貴重な体験をすることができたとともに多くの変化が見られるようになった。英語の授業では、日本文化や伝統行事などの紹介を通して自国の特長や歴史についての理解を深めることができたことに加えて、留学生によるハ

ワイ州の紹介を聴くことによって、自国の文化や行事と比較して異なった価値観に気づくだけでなく、日本や北海道、地域の魅力を再認識して、そこから積極的に英語でコミュニケーションをとろうとする態度も見られた。ハワイ州についての理解を深めることで、異文化理解および国際交流に強い関心を持つようになった生徒も見られ、国際交流や海外留学に対してさらに前向きに捉えるような変化も見られた。また、書道の授業では生徒がお手本を見せることで留学生に書道の楽しさを伝えたり、留学生がきれいに書くことのできるように必要なサポートをしたりして、異文化交流を積極的に図る姿が見られた。

給食での交流や学校行事もまた生徒たちに大きな変化をもたらした。とくに学校行事では、留学生が参加できるように各学級で工夫を重ねたり、一つの目標に向かって留学生も含めて学級が一つになるように積極的にサポートをしたりする言動が見られた。その結果、交流を深めるだけでなく、さまざまな違いを受容できる態度も見られるようになった。行事当日も喜びや感動を共有する姿が多くの場面で見られ、行事をさらに盛り上げる要因ともなった。

4 派遣留学生の変化と成長

本事業の参加にあたって、派遣留学生にも変化が見られた。学習にさらに力を入れて取り組むような主体的な姿勢が見られただけでなく、ハワイ州の生徒に積極的にコミュニケーションをとることで英語力の向上も見られた。また、校舎の造りや学校生活のリズムの違いに加えて、一つの校舎でさまざまな学生が学びを共有していることに魅力を感じるなど日本や北海道との違いを楽しんでおり、ハワイ州での生活が充実していたことがうかがえる。本事業を通して、国際的な視野を広げることができ、海外留学への関心も強くなった。今回の経験を自身の職業選択や進路選択に活かすだけでなく、発表を通して多くの人に知ってもらいたいという思いも強く持っている。

5 おわりに

1 週間という限られた期間ではあったが、留学生との交流を通して本校生徒に多くの変化と成長が見られた。英語力の向上はもちろん、コミュニケーションを図る主体的な態度や異文化理解、違いを受け容れる態度など特に内面的な変化と成長が見られたことが成果であると思われる。今後も、本校生徒には国際交流事業や異文化理解交流への積極的な参加を促すことで、国際的な視野を広げていくとともに地域に還元して活性化を図っていくリーダーを育成していきたい。

最後にこのような機会を与えていただいた北海道教育委員会、ハワイ州ワイパフ高校、ホームステイの受入に協力していただいたホストファミリーの皆様をはじめ、本事業に関わってくださった多くの方々に深く感謝申し上げます。

令和元年度北海道・ハワイ州高校生高校留学促進事情に係わる報告書

北海道石狩翔陽高等学校 教諭（引率）

1 事業参加による生徒の成長について

事業参加により、参加生徒の国際交流活動への参加意欲の飛躍的な高まりを実感した。引率中、生徒は多くの時間を現地ホームステイ先と受け入れ校で過ごし、直接活動の様子を見る機会は少なかったが、到着空港で不安げな表情を見せていた生徒たちが、最終日には見違えるような積極性を見せ、現地で交流した人々と再会を約束し、今後の語学学習への意欲を口にする姿を目にし、高校生年代の海外渡航経験の重要性を再認識することができた。期間中はハワイの現地スタッフのサポートのもと、様々な異文化体験と現地の人々との交流を自立的に行い、実践的コミュニケーションの場面で語学以上にボディラングージや表情などの非言語コミュニケーションが重要になるとの実感も得たようである。このような事業を通して、参加生徒が将来的に様々な国際交流の場面で積極的な役割を果たす人材に成長することが期待されるプログラムであった。

2 引率教員・英語教員として学んだこと

引率者として本事業に参加し、このような交換留学事業を促進するにあたり、現地受け入れコーディネーターとの意思疎通が非常に重要であると実感した。参加生徒の自立的・主体的な交流を図るためには、ある程度自由度の高いプログラムが必要であり、そのために状況に応じて生徒の受け入れ態勢を整備する現地日本語教員の果たす役割が非常に重要であるとの印象を受けた。主体的・体験的な学習のうち、最も効果的である交換留学事業は、今後も多くの学校に広がってゆくことが予想される。英語教諭として留学プログラムの開発に関わる立場となったときに、ぜひ今回の事業で学んだ内容を活かし、現地スタッフとのコミュニケーションを重視した学習内容を策定したい。

また、見学させていただいたワイパフ高校の授業スタイルにも大きな刺激を受けた。コミュニケーションを重視した授業スタイルは、現在の新学習指導要領の目指す「主体的・対話的・深い学び」のモデルケースであり、教員が積極的に生徒をファシリテートして意見を引き出す様子は、自身の英語の授業にも今後積極的に取り入れていきたい。

3 本事業全体に係る感想や、課題と感ずること

現地コーディネートスタッフとのコミュニケーションの中で、本事業の期間の短さが話題としてあげられていた。交換留学事業の中心となるのは現地ホームステイ先のホストファミリーとの交流を通じた生活体験であり、欧米型のライフスタイルを鑑みた場合、多くの交流が週末に行われる。今回は日程的に週末を含まないため、現地スタッフ、ホストファミリーともに、参加生徒とのコミュニケーションの深化に物足りなさを感じているとの

ことだった。ホームステイをプログラムとして採用する場合は週末を挟む日程、もしくは2週間程度の余裕をもった日程での実施が望ましいのではないかと感じた。

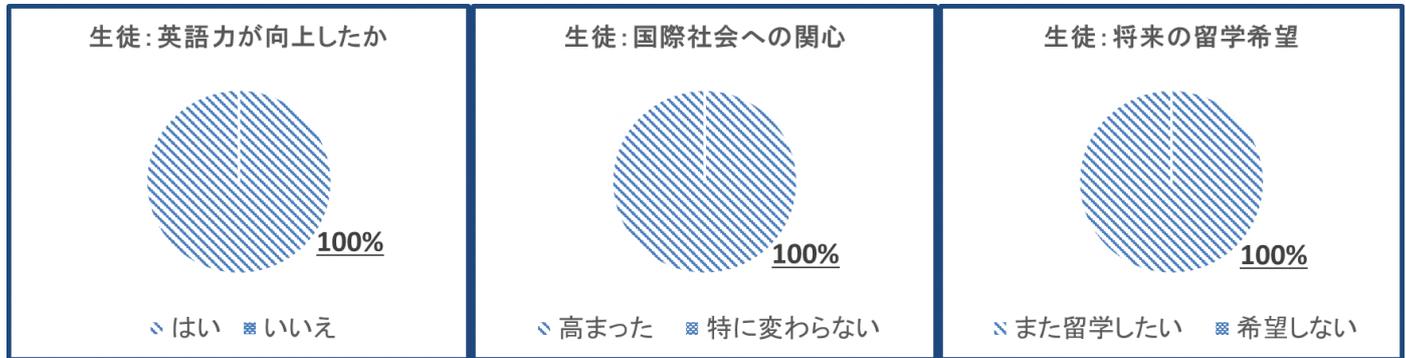
本事業に参加して、英語教員自身も多くの海外渡航を経験しながら、生徒に実践的な国際交流を伝えていく重要性を改めて感じることもできた。また、最終日には真珠湾の戦史展示を見学する機会に恵まれた。我が国の国際交流事業を考えると、歴史理解は必要不可欠であり国際交流教育と歴史教育の密接な関わりを再認識することができた。本事業を通して得た経験を、今後の自身の英語教育に活かしていきたい。

令和元年度（2019年度）北海道・ハワイ州高校生交換留学促進事業

—アンケート結果から見える事業効果—

■ 参加生徒へのアンケート（5名中）

参加生徒全員が、「英語力の向上」、「国際社会への関心の高まり」を実感し、「将来また留学したい」と回答。



● 感想 ●

- ・スクールバスでの通学、美しい街並み、行動力や優しさにあふれた人々、大半の生徒がアクティブに授業に参加する姿などが魅力だと思った。
- ・「日本語クラス」で「母国語」を習うという貴重な経験をした。日本語と英語の作りの違いを考えたり、日本語を学ぶ上で何が難しいかを現地の高校生に直接聞いたりしたことで、帰国後の英語の勉強が少しわかりやすくなった。
- ・英語を話すときに日本語に変換してから訳さなくなり、英語が自然と出てくるようになった。単語がわからなくても、違う表現で伝えるように試行錯誤するようになった。
- ・英語を実際に生活で使用することで、普段授業を受けているだけではあまり思わなかった「英語をもっと学びたい」という気持ちが強くなった。進路に関する視野が広がるとてもよい経験になり、日本では学ぶことが出来ない内容を学ぶことができ、とても楽しかった。

■ 引率教員の感想

- ・生徒の人生に、大きな影響を与える絶好の機会となったと思う。
- ・生徒の日々の成長を感じられ、また自身の国際交流意識も高まった。

■ 受入校担当教員の感想

- ・本校生徒も授業を通して留学生と密に交流を図ることができたことに加えて、学校行事では目標に向けていっしょに取り組み、非常に有意義な時間を共有することができた。
- ・英語力はもとより、日本文化の紹介やハワイの紹介など異文化交流を通して国際的な視野をさらに広げることができた。

■ 受入家庭の感想

- ・この機会がなければ体験できなかったことであり、外国の子の生活などもわかり、楽しい日々を過ごすことができた。
- ・子どもと留学生が何の問題も無く仲良くなれたようで、親としても見ているのが微笑ましく、娘が一人増えたと感じ、戸惑うことなく1週間を過ごすことができた。

令和元年度（2019年度）北海道・ハワイ州高校生交換留学促進事業

—アンケート結果から見える事業効果—

■ 参加生徒へのアンケート（5名中）

参加生徒全員が、「英語力の向上」、「国際社会への関心の高まり」を実感し、「将来また留学したい」と回答。



● 感想 ●

- ・スクールバスでの通学、美しい街並み、行動力や優しさにあふれた人々、大半の生徒がアクティブに授業に参加する姿などが魅力だと思った。
- ・「日本語クラス」で「母国語」を習うという貴重な経験をした。日本語と英語の作りの違いを考えたり、日本語を学ぶ上で何が難しいかを現地の高校生に直接聞いたりしたことで、帰国後の英語の勉強が少しわかりやすくなった。
- ・英語を話すときに日本語に変換してから訳さなくなり、英語が自然と出てくるようになった。単語がわからなくても、違う表現で伝えるように試行錯誤するようになった。
- ・英語を実際に生活で使用することで、普段授業を受けているだけではあまり思わなかった「英語をもっと学びたい」という気持ちが強くなった。進路に関する視野が広がるとてもよい経験になり、日本では学ぶことが出来ない内容を学ぶことができ、とても楽しかった。

■ 引率教員の感想

- ・生徒の人生に、大きな影響を与える絶好の機会となったと思う。
- ・生徒の日々の成長を感じられ、また自身の国際交流意識も高まった。

■ 受入校担当教員の感想

- ・本校生徒も授業を通して留学生と密に交流を図ることができたことに加えて、学校行事では目標に向けていっしょに取り組み、非常に有意義な時間を共有することができた。
- ・英語力はもとより、日本文化の紹介やハワイの紹介など異文化交流を通して国際的な視野をさらに広げることができた。

■ 受入家庭の感想

- ・この機会がなければ体験できなかったことであり、外国の子の生活などもわかり、楽しい日々を過ごすことができた。
- ・子どもと留学生が何の問題も無く仲良くなれたようで、親としても見ているのが微笑ましく、娘が一人増えたと感じ、戸惑うことなく1週間を過ごすことができた。